

令和2年度 第1回石岡市ふるさと再生会議 会議録

- 1 会議の名称
令和2年度 第1回石岡市ふるさと再生会議
- 2 開催日時
令和2年10月20日（火）午後2時～
- 3 開催場所
石岡市役所 市本庁舎2階 201会議室
- 4 出席者 17名
- 5 議事録（要旨）
 - (1) 開会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 議事
地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告について（資料1）
まち・ひと・しごと創生石岡市総合戦略の進捗状況について（資料2）
石岡市の人口動態の推移（資料3）

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告について（資料1）

○会長

議題1 地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料1 説明

○会長

ご意見、ご質問があればお願いします。

（意見なし）

ないようなので、事務局案のとおり整理する。

まち・ひと・しごと創生石岡市総合戦略の進捗状況について（資料2）

○会長

続いて、議題2 まち・ひと・しごと創生石岡市総合戦略の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料2 説明

○会長

ご意見、ご質問があればお願いします。

【基本目標1 市の強みを活かした安定した雇用の創出】

○委員意見

・県内の雇用失業情勢において、新型コロナウイルス感染症が雇用に与える影響に一層注視していく必要がある。石岡地域の現在の求人倍率は新規で1.35、有効では0.89であり、1人当たり1社ないような非常に厳しい状況となっているため、状況を見ながら求人確保に努めていく必要がある。

・空き店舗等の活用支援事業について、空き店舗を賃貸に出すオーナーが少ない実情の中で、9件も貸主がいたという実績を考えると、これからもっとできるのではないかと感じた。

・今年の2月、3月頃から厳しい状況を強いられている企業がたくさんあるが、市からの給付金などを活用してなんとか現状維持しているのが状況である。

・企業誘致の推進についてだが、柏原工業団地の各社の敷地は非常に手狭になっているため、隣接地への拡張や、第2の工業団地を造成するなどしないと、そうそう企業の誘致は進まないのではないかと感じている。

しかしながら、このような状況の中でも雇用できる体制を作りたい、建物を建てて設備を増強させたいと考えている企業や、コロナ禍を逆手にとって業績が伸びている企業があるのも事実なので、事業継続に苦勞している企業への対策に加えて、そういった企業への支援も考えてもらいたい。

・企業の拡張動向の情報を市でキャッチして、いわゆる拡張を促進することはとてもよい案だと思う。

・コロナ禍で人が歩かなくなったとはいえ、農産物の直売所の人出は非常に多いことを考えると、「ブランド化」が大切だと思う。ブランド化された商品やそれを使った料理などは、県外の方や観光客などに強くPRすることが可能であると思うので、頑張ってもらいたい。

・ブランド化には、量を売るという選択と、質で勝負するという選択がある。石岡市はそれほど土地も大きくないので大量生産は厳しいという事情を考えると、ターゲットを絞って高品質のものを進めていくというのはひとつの選択だと思う。

石岡セレクトの発足は、外から見てワンチームに見えるようになったということで、大きく一歩前進したと思う。

・ブランド化にはイメージづくりが一番大事だと思う。石岡市は、八郷のフルーツラインなど「果物のまち」のイメージがあるので、いちごのスムージーの次はブドウなどとシリーズ化して季節ごとに打ち出していけると、今回はなんだろうという期待感などを引き出せるのではないかと。

・ブランド化には、「絞る」ということと、イメージをきちんと浸透させることが大切だと思う。

【基本目標2 市の魅力を活かした新しい人の流れをつくる】

○委員意見

・観光という項目は、先ほど出たブランド化と一体ではないかと思う。人の「口コミ」で広がっていくのが大事であり、それが続いていくことが石岡市の再生につながっていくのではないかと。

・国で推奨している農工商連携に観光をつけて、農工商観連携というもので役所では整理できるのではないかと。またこの連携のために、よそからの目でパーツを繋ぎ、横串の役目をできるのは地域おこし協力隊なのではないかと。

・市で、販売スペースを設けたり、商品が購入できる場所が記載されたパンフレットをイベントなどで配布するなどすれば、今はパソコンで「お取り寄せ」もできるのでよいのではないかと。

・例えば、市報で石岡セレクトの認定について紹介したり、駅の観光案内所などへの露出、市のホームページへアップしてハッシュタグで拡散してく仕掛けをしていくと、広がっていくのではないかと。

・空き家活用事業も議題になっているが、八郷では旧家や古民家という空き家が増えているように感じている。今、このコロナ禍で地方移住が増えてきているが、田舎ならではの暮らしを求めていると思うので、旧家や古民家を活かして物件の紹介から改築業者の斡旋、お店を開きたい方には開業のアドバイスまでセットで提供できればよろしいのではないかと。

・公民連携という考え方がある。役所ですべてはできないので、公民連携で民間団体を育ててそこに予算をまわしていくと、役所ではできない事業をその団体が請け負えるのではないかと。一方で、役所は役所にしかできない部分、例えば商工会や議会などの関係機関をつないでいくということを担当していくという捉え方もある。

・朝日トンネルが開通して利用者がそれまでの倍近くに増えたが、観光とは繋がっていないようだ。課題をしっかりと検証して、またチャレンジして欲しい。あと、やさ温泉ゆりの郷については、結構評価が高いものですし、今後もしっかりとPRして集客していただきたい。

また、観光案内所の機能はかなりよくなり、外国人対応もしっかりできていると私は評価している。その他としては、木の住まい事業や住まいづくり事業をもう少しPRしていけば人口増に繋がるのではないかと考えている。大変古い施設であった国民宿舎つくばねを閉館して、間を入れずふれあいの森に宿泊施設を建設していることは、市の政策としてよかったと考えており、今後もそういう政策でやっていけば石岡市の発展は望めるのかなと考えている。

・八郷の農業をはじめとして石岡市は非常にいいものを色んなところでつくっているのだから、6次産業化についてももっと地元の方にもアピールして理解を求めるといった活動をしていけば、逆に県外の方がそういった活動に目をつけて、石岡市に入ってきて事業を起すなどにも繋がっていくのかなと思う。

・移住者繋がりや八郷に引っ越しを希望して、家探しを2年3年と探している人が実際に何人かいる。物件の交渉の際に、地元の方が「この人の紹介なら」と安心して物件を貸せるよう、地元の人と移住者をつなぐパイプ役があれば、空き家を抱えている人と移住希望者のマッチング率が高くなるのではないかと考えている。

また、移住者が借り受ける空き家の改築についても、改築の例やその際に利用できる助成制度をモデルケースとして示すことができれば移住へのハードルがさらに下がるのではないかと考える。

・空き家バンクという制度はとて素晴らしいと思っているが、もっと使いやすいよう制度運用の見直しをしないと、バンクへ登録しようと思う人が増えないのではないかと。

・まず自分たちが何をPRしたいのかが見えてこないと感じ、受け手側にも伝わらないため、効果的なPRにはまず、自分たちが何を発したいのかを決めるのが先だと考える。

【基本目標3 若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる】

○委員意見

・若い人をターゲットとして引き寄せ、子どもをもうけて家庭を築いていくには産婦人科と、夜間診療や休日診療を受け入れてくれる医療機関が必要だと思ふ。

また保育環境については石岡にも特徴のある保育園があるのでPRしていくといいと思う。

・結婚しやすい環境づくりについてだが、出会いの場や婚活の場に女性はなかなか行きづらい反面、婚活サイトへの登録がかなりあるようだ。

また、教育の充実については、つくば市方面などの進学熱で人が集まっているようなところと差別化を図り、地元の特化した進学目標として、例えば県内大学の合格者を100人目指します、というような目標や、体育専門高校を設立して野球選手や甲子園を目指していくというようなアドバルーンを立てるのも、石岡のPRにはよいのではないかと思う。

・出会い系アプリの利用については、本当にこれは今の若い人は活用しているようだ。

あと教育については、石岡には高校がありますから、例えば大学には寄付講座のようなものを考えてもよいのではないかと思う。

・施策の評価は大方がA Bと良い評価であるが、現在の場所に住み続けたい市民の割合は平成27年時点と比べて今回下がっているのは、サンプリングが多かったからか。

⇒（事務局）これは毎年実施している調査から抽出した数字で、サンプリングの数は毎年変わらない。本市では高齢化の進展に伴って運転免許を返納する人が増えている。そのため、交通の利便を理由とした転出・転居を希望する方が増えていると思われるが、この設問は市内での転居希望も「いいえ」という回答になるため、その影響もあるのではないかと考えている。数字が上がっていない事実は真摯に受け止めている。

・人口を増やしたいという最終的な目的がありながら、今現在住んでいる人が、今住んでいるところに満足をしていないという意味や、何で満足してないのか、そしてどこに移りたいのか、という理由に色々なヒントがあるのではないか。

・マーケティングの精度を上げるために、総合計画などのアンケート調査で、市民が持っている石岡のイメージ、定性的なものや定量的なものを調べて、石岡市がどんなまちで、それをどうしていきたいのか、マスコミに投げるポイントを明確にしていくといいのではないか。

・人口減少が進展しているという事実があるため、公民館などの公共施設や学校の再編などを進めていかなければならないため、公共施設総合計画は大事であろうと考える。

・公共施設については各自治体で非常に大きな問題になっている問題であるが、広域化、高機能化、複合化という3つの視点を持つとよいのではないか。

【基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心で心豊かな暮らしを守る】

○委員意見

・今の中学生は石岡の歴史についてはとてもよく知っている一方、（石岡の伝統行事である）石岡のおまつりに実際に出ている人、見に行く人は少ない。この状況を考えると、「ふるさと愛の醸成」という項目が高評価であるということは残念ながら実感が伴わないと感じている。

【その他】

○委員意見

・石岡市には、旧石岡市が誇る1300年の“歴史のまち”と“石岡のおまつり”，筑波山麓にある八郷地域の“ふるさとを想像させる自然豊かな町”というほかを引きつける魅力がある。

また、常磐線や6号国道、常磐自動車道のスマートインターが工業団地に面しているなど交通の利便性に加えて、いちごの“いばらキッス”や1個8,000円から10,000円という高価で取引される梨の“恵水”などの産地を活かした名産品があるという強みがある。

企業誘致については、敷地（誘致できる土地）のほか、水（工業用水）の問題など様々な課題があるが、スマートインターが近くにあるという強みがあるので、企業用地を広げていけるような施策を模索できればいいと思っている。

地域医療についての検討が進められているが、産科や小児科の設置が本当に必要か、という医療体制の問題に加えて、それを維持する医師の人数確保と配置という課題をクリアしないと石岡地域の医療体制というものが崩れてしまうのではないかと危惧している。

・やはり大事なことは「PRする」「伝えていく」ということ、そして「パイプ役」というワードだと思う。委員には社会福祉協議会の方が入っていないが、彼らは地元の細かいコミュニティーに入って「つなぐ」という役割を担うのに適任ではないかと感じる。

石岡市の人口動態の推移（資料3）

○会長

続いて次の議題に移りたいと思う。石岡市の人口動態推移について、事務局から説明をお願いする。

○事務局

資料3 説明

○会長

人口ビジョンの達成のため、市として取り組んでいくことについてご意見賜りたい。

こちらについて少し補足説明すると、今我が国では人口減少が2004年から進んでおり、東京一極集中を是正していくということで地方創生が謳われている。構図としては、都会の人口が増えて、地方は軒並み落ちているというのが現在のトレンドであるが、石岡市の人口ビジョンはかなり高い目標が設定されている。

近頃、国としては定住人口や移住人口より人口の捉え方を広くみて、石岡市に関係ある人という「関係人口」を増やしていくことを唱えているが、これは結局、裏を返すと「定住人口を増やすことは厳しいよ」ということであるが、このような現実問題も踏まえて、皆さんからご意見を伺いたい。

○委員意見

・よく子どもの数が減っていると言われているが、教育費の無償化や補助が大分増えたこともあって、子どもを多く持つ方が増えたのではないかなと感じている。

先ほどの説明の中で不妊治療への補助が200人ほどあったが、こういった治療を受けることで子どもを持つことが叶う人がいて、そのぶん子どもの数も増えていくのではないかと思う。お金がかかっても、40歳を過ぎても子どもが欲しいという人がたくさんいるようなので、その気持ちを汲んで、市としても少し力を入れてほしい。

・数字をどう見るかということがある。総数として、子どもの数が減っていることは間違いのないというのは、対象年齢の方、つまり分母が減っているということだ。一人っ子の世帯がどのぐらい平均でいるのかということや、結婚しない方なども含めて分析する必要があるかも知れない。

・今日は色んな意見があったが、ぜひ石岡市においてもエビデンスに基づいて政策を進めていただきたい。根拠のないまま進まずに、区別をしながらしっかり進めていっていただきたい。

(閉会)

○会長

以上で、議事については終了する。

慎重なご審議をいただき、ありがとうございました。

○事務局

それでは、以上をもちまして令和2年第1回ふるさと再生会議を閉会といたします。

本日は皆様から様々なご意見をいただきまして、大変ありがとうございました。